

培

同クラブは社会奉仕と休耕地の有効活用を目的に、昨年9月に会員40人で小城市三日町織島に畑を作りソバの種をまいた。慣れない作業に戸惑いもあったが、会員が一致団結して12月には収穫にこぎ着けた。高齢者施設へのそばの贈呈を発案した同クラブ会長の中尾嘉宏さん(71)は「高齢者のみなさんの社会貢献のおかげで今日の平和な日本がある。恩返しのためにおいしいそばを食べてほしい」と話した。



施設利用者にそばを手渡す佐賀北ロータリークラブ会長の中尾嘉宏さん(左)＝佐賀市高木瀬町の地域在宅福祉センター＝とボランティアのメンバーら。

みずみずしい食感を楽しんでもらうために盛りそばとして振舞われた。そばを食べた同施設の橋ノミヨ子さん(81)は「喉ごしがよくて、おいしかった」と喜んでいました。(諸岡佳紀)

東多久町「寒鶯窯」窯開き展

作風多彩 唐津焼1000点

【多久市】多久市東多久町に唐津焼「寒鶯窯」を構える田中邦子さん(64)の窯開き展が、同窯のギャラリーで開かれている。土の温かみが伝わる茶碗やコーヒーカップなど普段使いの器から、釉薬を大胆にかけ、デザイン性を前面に出した深鉢の大作など約千点が並ぶ。26日まで。

田中さんは有田窯業大学校ろくろ科の第一期生で、1988年、自宅に築窯してから毎年必ず新作などを発表している。絵唐津や朝鮮唐津の食器が大半を占める中、三島唐津と絵唐津を掛け合わせた創意あふれる小品も並んでいる。

また直径約50センチ、高さ20センチの深鉢に灰釉と鉛釉をひしゃくで大胆にかけ、動きが感じられる芸術性の高い作品も展示。貝殻による象眼技法で仕上げた刺身皿なども作陶し、田中さんは「さまざまな唐津焼があることを知ってほしい。きつと食事が楽しくなる器が見つかるはず」と話している。(山内克也)

【多久市】多久市東多久町に唐津焼「寒鶯窯」を構える田中邦子さん(64)の窯開き展が、同窯のギャラリーで開かれている。土の温かみが伝わる茶碗やコーヒーカップなど普段使いの器から、釉薬を大胆にかけ、デザイン性を前面に出した深鉢の大作など約千点が並ぶ。26日まで。

田中さんは有田窯業大学校ろくろ科の第一期生で、1988年、自宅に築窯してから毎年必ず新作などを発表している。絵唐津や朝鮮唐津の食器が大半を占める中、三島唐津と絵唐津を掛け合わせた創意あふれる小品も並んでいる。

また直径約50センチ、高さ20センチの深鉢に灰釉と鉛釉をひしゃくで大胆にかけ、動きが感じられる芸術性の高い作品も展示。貝殻による象眼技法で仕上げた刺身皿なども作陶し、田中さんは「さまざまな唐津焼があることを知ってほしい。きつと食事が楽しくなる器が見つかるはず」と話している。(山内克也)

【多久市】多久市東多久町に唐津焼「寒鶯窯」を構える田中邦子さん(64)の窯開き展が、同窯のギャラリーで開かれている。土の温かみが伝わる茶碗やコーヒーカップなど普段使いの器から、釉薬を大胆にかけ、デザイン性を前面に出した深鉢の大作など約千点が並ぶ。26日まで。

田中さんは有田窯業大学校ろくろ科の第一期生で、1988年、自宅に築窯してから毎年必ず新作などを発表している。絵唐津や朝鮮唐津の食器が大半を占める中、三島唐津と絵唐津を掛け合わせた創意あふれる小品も並んでいる。

また直径約50センチ、高さ20センチの深鉢に灰釉と鉛釉をひしゃくで大胆にかけ、動きが感じられる芸術性の高い作品も展示。貝殻による象眼技法で仕上げた刺身皿なども作陶し、田中さんは「さまざまな唐津焼があることを知ってほしい。きつと食事が楽しくなる器が見つかるはず」と話している。(山内克也)

【多久市】多久市東多久町に唐津焼「寒鶯窯」を構える田中邦子さん(64)の窯開き展が、同窯のギャラリーで開かれている。土の温かみが伝わる茶碗やコーヒーカップなど普段使いの器から、釉薬を大胆にかけ、デザイン性を前面に出した深鉢の大作など約千点が並ぶ。26日まで。

田中さんは有田窯業大学校ろくろ科の第一期生で、1988年、自宅に築窯してから毎年必ず新作などを発表している。絵唐津や朝鮮唐津の食器が大半を占める中、三島唐津と絵唐津を掛け合わせた創意あふれる小品も並んでいる。

また直径約50センチ、高さ20センチの深鉢に灰釉と鉛釉をひしゃくで大胆にかけ、動きが感じられる芸術性の高い作品も展示。貝殻による象眼技法で仕上げた刺身皿なども作陶し、田中さんは「さまざまな唐津焼があることを知ってほしい。きつと食事が楽しくなる器が見つかるはず」と話している。(山内克也)

【多久市】多久市東多久町に唐津焼「寒鶯窯」を構える田中邦子さん(64)の窯開き展が、同窯のギャラリーで開かれている。土の温かみが伝わる茶碗やコーヒーカップなど普段使いの器から、釉薬を大胆にかけ、デザイン性を前面に出した深鉢の大作など約千点が並ぶ。26日まで。

田中さんは有田窯業大学校ろくろ科の第一期生で、1988年、自宅に築窯してから毎年必ず新作などを発表している。絵唐津や朝鮮唐津の食器が大半を占める中、三島唐津と絵唐津を掛け合わせた創意あふれる小品も並んでいる。

また直径約50センチ、高さ20センチの深鉢に灰釉と鉛釉をひしゃくで大胆にかけ、動きが感じられる芸術性の高い作品も展示。貝殻による象眼技法で仕上げた刺身皿なども作陶し、田中さんは「さまざまな唐津焼があることを知ってほしい。きつと食事が楽しくなる器が見つかるはず」と話している。(山内克也)

佐賀の木を知ろう、使おう! キャンペーン vol.3

佐賀県の森林は、スギやヒノキなどの人工林が約67%で、全国1位の比率となっています。一方、木材価格の低迷や林業従事者の高齢化などで木材の利用は進まず、森林の荒廃も問題となっています。地元の木材を利用し、豊かな森を育むにはどうすればいいのか。生産、製材、建築と、木材に関わる3つの現場を訪ね、ヒントを探ります。

孝和建設(佐賀市) 代表取締役 栗原孝太郎さん(32)

当社は、新築からリフォーム、中古住宅のリノベーションまで「何でも手がける」のが特徴です。地域の人たちのあらゆるニーズに対応したいとのポリシーから、あえて何でも引き受けます。東京の広告代理店を辞めて帰郷し、実家が手がける建築と不動産の世界に飛び込んだのも、業界の古い慣習をあらため、エンドユーザーの視点を生かしたいと思ったからです。地域密着型工務店として「この地域になくはない存在になりたい」と願っています。

当社で建てる家は木を使う伝統的な在来工法がメインです。木材は鉄骨やRC(鉄筋コンクリート)と比べて、断熱性がとても高く人間にとって心安らぐ環境が創出できるといふ大きな利点があり、1000年も持つ耐久性なども歴史が証明しています。一般の方には、木造は強度が弱く燃えやすいというマイナスイメージが強い



断熱性に優れ 心安らぐ木の家

ようですが、強度、気密性、コストパフォーマンスなど基本性能はどれも他の工法に負けません。

日本は世界有数の木材大国なのに、海外から木材を買っています。地元には資源があるのに使わないという、経済的にも環境的にもいびつな状況です。木の良さを引き出せる職人も全国的に減少しており、当社では、昔ながらの手刻みなどができる若手大工職人の育成にも力を入れています。木材の地産地消が進めば、地域の経済が活性化し、自分たちにも恩恵が戻ってきます。これからもセミナーなど開き、木の家の良さを地域に伝えていきたいと思っています。



木を多用する在来工法 女性の木工さんも活躍 心安らぐ木の家

4/29(水・祝) Let's WOOD PARK in モラージュ佐賀

佐賀の木を知ろう、使おう! キャンペーン!

実際に木に触れて、木の良さを知ってもらおうと、「佐賀の木を知ろう 使おう! キャンペーン」のイベントとして、ウッドパークを開催します。表札製作実演や森の音楽会、親子木工体験など楽しいイベント満載です。ぜひ、お出かけ下さい。

【主催】佐賀新聞社、県森林組合連合会、県木材協会  
 【日時】4月29日(水・祝)10時~17時  
 【会場】モラージュ佐賀(佐賀市巨勢町)  
 【参加】無料

- 木のコースターづくり (参加自由)
- プロの職人と「カンナ削り」体験 (無料) ①13:00~13:30 ②15:00~15:30
- 森の音楽会 鬼塚康輔と仲間たち ①11:00~11:30 ②13:30~14:00 ③15:30~16:00
- 佐賀北高校書道部 表札きごう実演 (申し込み終了) ①12:00~13:30 ②14:00~15:30

問い合わせ 佐賀新聞社 アド・クリエート部 0952-28-2195 (平日9時半~17時半)

林野庁補助事業

企画・制作/佐賀新聞社営業局